

カハニク



指定障害者支援施設

さやま園 ▼▲● だより
GOOD DAY SUNSHINE PROJECT!

No.219
2023.MAR.



22年度もコロナ一色でしたな。さやま園は夏の第7波そして冬の第8波にそれぞれクラスターになりました。「元気があればコロナもなくなる。」はずでしたが敵は手ごわかったです。当園に限らず多くの施設でクラスターが起きたようです。冬は夏よりも罹患^{りかん}者が41名と多かったです。しかし元気があったので皆様軽症で済みました。ただし窮屈な生活が強いられてしまい申し訳ありませんでした。

今回も「チームさやまが一致団結した・底力をみせつけた」1か月でした。利用者さんと職員には本当に感謝の気持ちで一杯です。コロナのクラスターを2回も経験しました。皆様が大変な想いをされたかと思えます。私も園長になったばかりで、「なんで？どうして？逃げ出したい。」と思いましたが、みんながいたからこそ頑張れました。職員も利用者の皆様もきっとみんながいたから頑張れたのかと思います。重篤者がいたらこんなこと考えなかったと思います。貴重な経験でした。みんなの適応力の高さや生命力を実感出来ました。さやま園だからこそ乗り越えられたと思えます。終息後やりきった感を持った方々が少なくなかったと思います。利用者さん・職員の底力が実感できました。

さやま園のみんな今年も元気いっぱいでした。笑顔もいっぱいでした。作業やりハビリなども頑張っていました。来年度のスローガン「みんながげんきでえがおで。たのしいさやまえん」です。

さやま園は利用者96名職員125名の大所帯です。中にはにぎやかなことが苦手な方もいますし、高齢の方はもつとゆつたりした生活がよいかもしれません。仲間とはずっと一緒にいたいけど、次の生活スタイルも考えていかななくてはいけないケースも少しずつ出てきています。そのためにはご家族のご理解とご協力も不可欠になります。人間は変化を好まない生き物と言われますが、その方の幸せを考えた時には別の生活スタイルも考えなくてはいけないでしょう。福祉の仕事は人の人生に関わる仕事です。だからこそやりがいいのある仕事かと思えます。答えがないから支援は大変だけど、面白く楽しいのでしょうか。

4月からは8時間労働になります。業務改善が不可欠です。トヨタ自動車の「カイゼン」を紹介し、皆で考えてもらっています。未来工業の「常に考える」という意識を持ってもらうためにある取り組みも始めました。カイゼン第一号は新人職員でした。表彰しました。「クラスター時に毎回変化する罹患者の表を見やすくしてくれました。」お見事!!その他の取り組みは次回お伝えします。

福祉は人なり。利用者さんあつての仕事ですが、職員がいないと成り立たないのが現状です。この文章を読んでぜひさやま園に興味を持った方々連絡お待ちしております。楽しい職場ですよ。



掲示された「にやりほっと」のコメントを深ボリする企画

「にやり」ほっと no.6

カルミア 210 号より始まった不定期連載企画。
今回もさやま園でのホッとできる温かいエピソードを紹介していきます。
今回はどんなエピソードが飛び出すか乞うご期待！

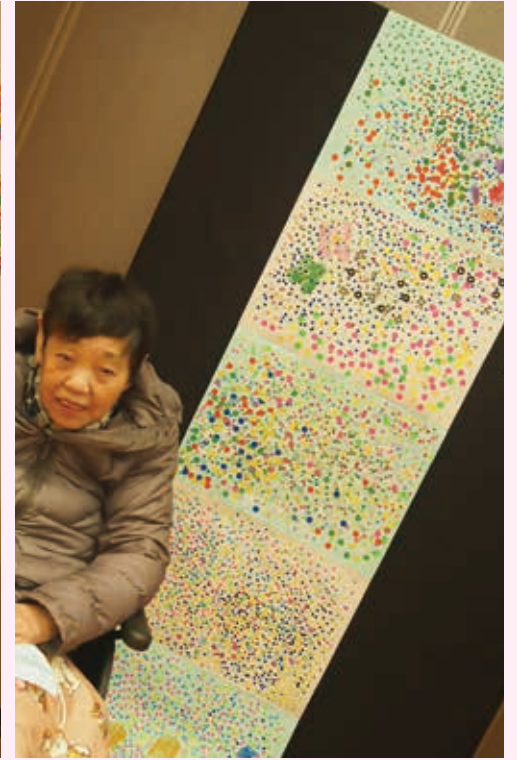
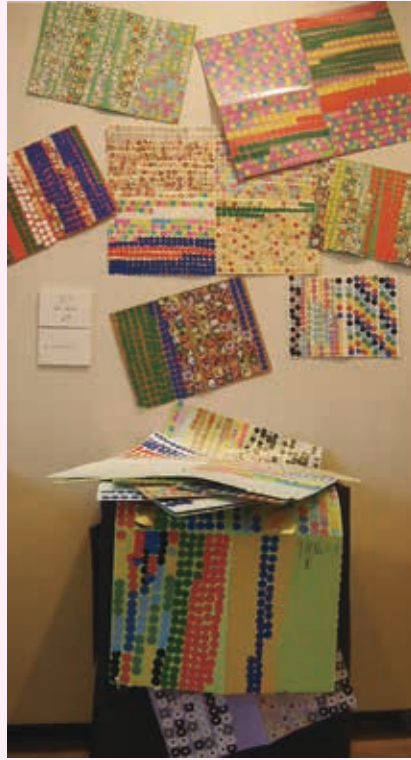
K・Mさん 『食堂での光景 —あたたかな応援—』

苦手なメニューなのかなかなか食事が進まない利用者のYさんがいらっしゃいました。そこへ通りがかったK・Mさん。職員と一緒に「頑張って食べよう」と声をかけてくださいました。職員の「頑張りましょう」の声掛けではなかなか進まなかったのに、あら不思議。「K・Mさんが応援してくれるから頑張る！」と苦手なメニューにふたたびチャレンジを始めるのです。職員と一緒にYさんが食べ終えるまでそばで応援をつづけてくださいました。応援をちからに食べ終えたYさんから「応援してくれてありがとう」との言葉をもらい、一緒にハイタッチ。とてもうれしそうなK・Mさん。応援を終えたあと「私も苦手なメニューでも頑張って全部食べているんだよ」と誇らしげに報告がありました。職員である私も小学生の頃の給食…。苦手なメニューの日は残って食べていたなと思いつつ、応援してくれる仲間がたくさんいるさやま園にほっと温まったエピソードでした。

T・Kさん 『大切な休憩時間 —温かい気配り—』

活動中やおやつ飲み物をとても楽しみにしているT・Kさん。日中活動の休憩中に配っているお茶、また特に週末にだけ出てくるコーヒーは大切な日課の一つです。活動を頑張っている自分が飲む！というのはもちろんですが、職員へも「コーヒー飲んだ？」と気に掛けてくださるのです。職員から「まだ飲んでいないです」との返答があると、にっこり笑って「飲んでいいよ」と一声。職員も温かい気配りをいただいてひとときの休憩です。さらに最近では「飲んでいいよ」の一声ではおさまらず、職員へお茶を汲んでくれようとする場面もあるそうです。自分の大切な時間を職員や他の利用者皆さんと共有しようとしてくれる優しさに温まるエピソードでした。





●ぴゅあーと展とは？

多摩北部都市広域行政圏協議会(小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市)の、市域を越えた文化事業「多摩六都フェア」の一環として開催するアート展です。圏域5市に在住、在勤、在学の障害のある人が応募した作品(絵画、工作、陶芸など)の中から、専門家によって選考された作品を展示しています。

第15回 ぴゅああーと展をみにいこうの旅



ぴゅああーと展への出展は、さやま園にとっても毎年とても楽しみにしているイベントの一つです。この度、2年ぶりに開催できると聞き、さやま園の活動グループから20名ほどの作品を出品しました。その結果見事に11名の方が入選いたしました。コロナ禍ではありましたが、今回初当選となった4名の利用者のかたと2月16日に観にいってきました。

久しぶりの外出と春が待ち遠しい陽気のなか、会場の東久留米市役所まで向かいました。車内ではぴゅああーと展のパンフレットを見ながら「久しぶりだね～、楽しみね～」と気持ちが弾む会話が飛んでいましたが、到着するとすこし緊張した様子のみなさん。自分の作品がどこにあるかなどドキドキしながら会場へ向かいました。自分たちの作品を見つけるとIさんは少し驚いた表情で(あっ!じぶんだ!・・・心の声?笑)でも照れているのか流し目でじーっと自分の作品見つめていましたし、Tさんは「そうよ、にわとり好きなのよ～、嬉しいね」と声を出して喜ばれていました。毎朝、にわたりの真似で声をかけてくれるTさん。粘土でも迫力満点でした。

展示会を見終えたあと、みんなでジュースで乾杯しました。外出先でのジュースはきっと格別に美味しかったですね。とても刺激的でクールな一日になりました。



同行職員、長田さん(創作活動担当)の感想

今回初めてぴゅあアート展を観に行ったのですが、利用者さんの作品の飾り方、作品の見せ方がこんな風になると見ている側が感動できるんだな、作品の迫力がプラスされるんだなと学びました。

33名ほど所属している創作活動の利用者のかたは、それぞれ個性があり出来上がるとみんな作品の感想を話し合います。そのことで他者の作ったものに感動し、自分もやってみようという意欲が湧き新しい作品が生まれたりすることが、私の喜びにもなっています。

自分たちの作品を数ある展示の中から探し飾られていることに喜ばれる姿をみて、これからもいろんな作品と一緒につくっていきたくと改めて思いました。

そして、この様にさやま園を知ってもらえることがちょっと誇らしく思えました。

陶芸担当職員、栗田さんのコメント

ある利用者の方は数年前に入所し、コロナ禍で旅行や行事になかなか参加できず、楽しい事、嬉しい事を感じてもらいたいと思い出展しました。素晴らしい作品が出来たことも理由の一つです。

利用者の方で『作品展にだそう、頑張るぞ!』と、話をしている方もいます。やはり目標を持って、そして誰かに見てもらえる事はとても嬉しくやりに繋がると思います。

活動は講師、ボランティア、利用者、職員が色々な考えを言って形にしていく。そして完成作品を見てみんなで喜びを分かち合う!皆さんの笑顔が見られる陶芸は楽しいです!

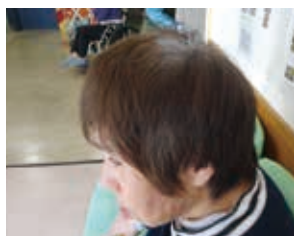


シャルム訪問カット

「髪が伸びたから早く切りたい!」

いくつ年齢を重ねても、お洒落に気を遣うことで心が晴れやかになったり、嬉しくなる瞬間ってありますよね。皆さんも心当たりがあるのではないのでしょうか?今回は、そんな身も心も綺麗でウキウキするようなお話を紹介します。

さやま園で最も介助度が高いつくしグループでは、利用者さんの身体面を考慮し、1か月に1度訪問美容室 Charme さんに来園して頂き、カットやカラーの施術をしています。髪が伸びたり、カラーが色落ちしてくると気になる利用者さんもいるようで、時期が近づくと「早くカットしたい!」と毎回楽しみにされています。訪問カットは普段入浴で使用している脱衣場で行いますが、カラー剤や道具が入ったワゴンが並び、利用者さんが椅子に座ってカットクロスを付ければ、あっという間に美容室に様変わり!施術中はその気持ちよさからか、眠りの世界へ旅立つ利用者さんもしばしば…。私も髪を切る時は気持ちよく寝てしまうので、利用者さんの気持ちがよく分かります!カット後のさっぱりした姿と、こちらまで嬉しくなってしまうような利用者さんの表情をみると、お洒落することが生活の豊かさにも大きく関わっていることを実感します。私もさやま園の利用者さんのように「美しくありたい」という気持ちを忘れずに年を重ねていきたいです。



BEFORE



AFTER



BEFORE



AFTER



さやま園のイロドリ PART2

日常の装飾

日本には四季があり、さらに月ごとに天候や風景が変わることで日々、季節を感じながら生活しています。情緒を豊かにすることで、生活もより楽しくなりますよね。

さやま園の園庭では季節ごとに美しい花が咲いたり、実をつけたり、葉が落ちたりすることでそれぞれ季節を感じることができます。

それに加えて、さやま園では室内においても利用者のみなさんが季節を感じられるように、職員と一緒に余暇の時間に園内でこんな装飾をしています。こちらではすみれグループの利用者さんにお話を聞いてみましょう。



「これはね。ピンクの紙をみんなで切ったり、ちぎったりして、糊をつけて貼って花びらにしたの。」
「みんなでいっぱい貼って大変だったけど、楽しかったよ。」



「切って折った折り紙を花びらにしてから、色がきれいになるように貼ったんだよ。」
「かたつむりは私もつくったんだよ。」
「葉っぱは職員がうまく作ってくれたよね。」



「黄色い花びらは私も折り紙を折ってつくったよ。」
「真ん中の茶色のところは、新聞紙を丸めていれてあるんだよ。だからふくらんでるんだよ。」

利用者のみなさんは制作した時を振り返って嬉しそうに教えてくれました。すみれグループでは他にも行事やデリバリー昼食の様子を収めたスクラップを作成して壁に貼ったりと、余暇の時間も楽しく過ごしています。

さやま園では、季節ごとに行事を行っていますが、何気ない園内での日常でもこうして季節を感じることができたり、行事の思い出を振り返ることができるのはいいですね。

利用者のみなさん、また新しい装飾を作ったら教えて下さいね！

皆さんこんにちは!広報委員会のナギカワ(以下ナギ)です。厳しい寒さも和らいできて、春の訪れを少しずつ感じる今日この頃。皆さまはいかがお過ごしでしょうか。

さて、前回お休みさせていただいた職員インタビュー企画ですが、今年度最後のカルミアにて5回目となります。今回のゲストはリクエストも多く満を持しての登場となります西川志江(主任・つくしグループリーダー)さんです。

では **スタート ミー アップ!!**

■ 入職の経緯!

ナギ:(緊張しながら)お忙しい中ありがとうございます。今回はよろしくお願いします。

西川: よろしくお願いします。

ナギ: 早速ですが、西川さんがさやま園に入職されたいきさつをお聞かせ下さい。

西川: 元々、児童福祉に関して学校で学んできて、どう進もうかという時期にさやま園で職場体験をした友人がとても楽しかったと話していたんです。それを聞いてこちらの分野もちょっといいのかもなと思って、さやま園の門を叩いて面接をしていただいたという感じです。

ナギ: 最初は戸惑いもありましたか?

西川: そうですね。知的障害の方にはボランティアなどでしか関わったことは無かったので、ホントに未知の領域でした。

ナギ: 大ベテラン西川さんの初々しいスタート地点ですね。



西川志江さん

■ 先輩職員からの金言

ナギ: 入職してから影響を受けた先輩職員とかいらっしやいますか?

西川: 最初は利用者10名くらい職員4名くらいのお小さなグループだったんですけど、まず「待つことが大事」ということを教えてもらったんですね。利用者さんがやることを待つ姿勢がすごく大事だと。(職員が)手を差し伸べてやってしまえば簡単なんですけど、(自力で)できる力はみなさんあるので、そこを見守ることを大事にして下さいと。

ナギ: 自立支援ですね。

西川: あと、「楽しんでいろんなことをやって下さい」と。行事にしても何にしても職員が楽しまないと利用者さんもそれを敏感に感じるの、楽しいことは思いっきり楽しむ。あと「メリハリをつけて生活を支援して下さい」と。それらは根底にあり、今でも大事にしていることでし忘れられないですね。あと、地域移行や手続き等でリーダー層が外回りに出なければならぬ園内での支援を(私も含めた)若い職員のみで色々決めてやっていかなければいけない時期があって、少しモヤモヤしたこともあったんですけど、その時に「あなたたちだから安心して任せられる」と言われてすごく嬉しかったし、信頼されるってこう

いうことなんだと実感しましたね。とても大きなことでした。どういった思いで任せてくれたのかということもわかってスッキリしたし、人に任せるといことも大事なことで、信頼する大切さも学びましたね。

ナギ: こんないいお話しが聞けるとは…ありがとうございます。そういったことを根底にふまえながら今の立場で西川さんが意識していることはありますか?

⇒続きは、さやま園 WEB サイト「<https://sayamaen.com>」にて掲載中です。または PC かスマホから「さやま園」で検索してみてください。



大根掘りでも張り切っていた西川さん

編集後記

寒い冬が過ぎ、温かい春を迎えようとしています。みなさん、いかがお過ごしでしょうか? 早くも今年度が終わろうとしていますね。今年度のさやまを振り返ると、やはりコロナの影響により生活が制限されていた部分がたくさんありました。その状況の中でも、利用者・職員ともに楽しく過ごしていたのではないかと感じます。5月からコロナの規制緩和が世間で話題に挙がっていますが、さやま園も次年度は外出などができることを願います。規制緩和されたからといって羽目を外しすぎないように!健康第一で過ごしましょう!

広報委員 望月

